

## 第5節 陸前高田グローバルキャンパス（2017.4 開設）

工学部教授、副学長、COC推進室長 八代 仁

人文社会科学部教授 五味 壮平

「震災後、陸前高田には国内外から本当にたくさんの大学関係者が訪れて来ています。しかし、その人達を結びつける交流の場がありません。みんなばらばらなのです。」

2015年4月28日、就任直後の岩淵明学長が沿岸自治体を訪問、陸前高田市仮設庁舎の2階にある市長室で戸羽太市長と会談を始めると、市長はこう切り出した。

「実は統合で空き校舎となる予定の中学校がある。そこを使って岩手大学が国内外から集まる学生の交流拠点を作るというのはどうだろうか。」

岩淵学長は、復旧で学生交流どころではなかったはずの陸前高田市が4年を経過してようやく落ち着きを取り戻し、大学にも目を向け始めていることを感じて、市長の提案を持ち帰って検討することを約束した。このとき、学長らは申請締切が近づいていたCOC+事業への協力要請を兼ねて訪問しており、この話はCOC+事業にもつながるものだった。

6月11日、岩手大学は「地域復興創生センター（仮称）」の設置構想をまとめて陸前高田市に提案した。一方でこの構想はCOC+事業の4本柱のひとつである、「三陸復興・先導モデル創出プロジェクト」の中に位置づけられ、6月末、COC+申請書に盛り込まれて文科省に提出された（本章第1節参照）。

その頃立教大学では、震災前からの林業体験プログラムの縁などで交流のあった陸前高田市を支援するボランティア活動が続いており、創立150周年（2024年）に向けたビジョンのひとつとして陸前高田市にサテライトキャンパス設立してはどうかという声が高まっていた。そのことが市長の耳に届き、岩手大学でも「地域復興創生センター（仮称）」構想を進めようとしているから、一緒に事業を行ってどうか、と両大学に提案したのである。

9月28日、立教大学を訪問した八代は西田邦昭副総長と面談し、2017年度に地域復興創生センター（仮称）を共同で設置、運営する方向で協議を進めることの約束を取り交わした。ちなみにCOC+事業の採択内定通知があったのは、この次の日であった。一方で、立教大学は10月20日付けで「RIKKYO VISION 2024」を発表、陸前高田サテライトキャンパスの設置計画を明記した。岩手大学ではかねてから陸前高田市で活動していた五味壮平教授と村上清容員教授（陸前高田市市政アドバイザー）を設置準備のための中心メンバーに据え、設置計画を練りはじめた。12月19日には交流拠点となる予定の陸前高田市立高田東中学校を立教大学関係者とはじめて視察した。このとき、高田東中学校では通常の授業が行われており、移転は1年後（2016年12月）になる予定とのことだった。

年が明けて（2016年）1月19日、陸前高田市役所に戸羽市長、岩淵学長、吉岡知哉総長（立教大学）が揃い、「陸前高田市、岩手大学及び立教大学における地域創生・人材育成等の推進に関する相互協力及び連携協定」の締結式が行われた。同協定には、3者が陸前高田市をはじめとする三陸沿岸地域の復興と創生に貢献すること、教育研究及び幅広い交流に係る拠点を設置すること、など

が盛り込まれた。この協定に基づいて、3者は連携推進協議会とその下に企画運営委員会を設置し、いよいよ交流に係る拠点の設置に向けて準備を加速させていった。

まず交流拠点の名称決定にかなりの議論が費やされた。「陸前高田」の名称とわかりやすさを優先させることが合意され、ようやく正式名称が決まったのは5月13日に行われた第3回企画運営委員会で、「陸前高田グローバルキャンパス」に落ち着いた。同時に愛称として「たかたのゆめキャンパス（ゆめキャン）」も決定されたが、こちらは目論見ほど普及していない。キャンパスの理念についても真剣な議論が繰り返され、「つたえる」(convey)「つなぐ」(connect)「つくる」(create)の3つが採用された。

陸前高田グローバルキャンパスは、高田東中学校の2、3階部分を改修して設置することとなり、その費用を含めて、陸前高田市は内閣府の地方創生加速化交付金に「東日本大震災の経験・復興プロセスを活用した交流活動拠点づくり事業(空校舎の利活用)」を申請(2月12日)、3月18日に採択された。限られた予算ではあったが、改修費が確保されたことで、施設の整備構想は大きく前進した。宿泊機能は断念せざるをえなかったが、シャワー室や畳の部屋なども整備することになった。市民への開放を念頭にラウンジが設計された。音楽室はキャンパスの看板となるホールに生まれ変わり、陸前高田市で英語指導助手を務め、津波に遭遇して絶命したモンゴメリー・ディクソン氏の愛称にちなんでこの部屋を「モンティ・ホール」と命名することとした。このほか、ワークショッブルームや中・長期滞在者向けのシェアラボが設計された。これらの改修は2017年4月からのオープンに向け、中学校が移転し終わる年明け後3ヶ月間で行うこととなった。キャンパスの設計やロゴマークのデザインなど、特に細部へのこだわりは陸前高田市に派遣されていた一級建築士の芝祐仁氏の貢献によるところが大きい。

建物の準備とともに、企画運営委員会は管理運営計画や事業計画立案、ホームページ作成など様々な準備を精力的に進めていった。協定締結後、キャンパスが開設されるまでの1年間に開催された企画運営委員会は12回に及んでいる。キャンパスの設立に関する基本規程にあたる、「陸前高田グローバルキャンパス設置及び運営規程」は2017年2月1日に制定・施行され、建物はまだ改修中ながら、書類上はこの日をもって陸前高田グローバルキャンパスが誕生した。キャンパスを運営するために、会員制の「陸前高田グローバルキャンパス運営機構」(任意団体)を発足させ、岩手大学と立教大学が正会員となった。両大学は年会費300万円を出し合ってキャンパスを運営することで合意、陸前高田市は無償で建物を貸与するほか、会費と同額の補助金を用意することとなった。書類上のキャンパス開設日を2月1日と急いだのは、2017年度に向けて、陸前高田グローバルキャンパス運営機構として事業計画をたて、予算要求等を行うためであった。運営機構には役員会が置かれ、役員会はキャンパスの管理を、NPO法人P@CTに委託することにした。

一方、岩手大学の内部では、協定締結後に「陸前高田交流拠点設立準備室」が設置され(2016年2月9日学長制定)、開設までの1年間、学内調整を行った。同準備室は、キャンパスが開設されると「陸前高田グローバルキャンパス事業岩手大学推進室」(2017年4月1日)と名称を変え、その活動を続けている。

キャンパス開設前の2016年度中にはいくつかプレ行事が行われたが、とりわけ2017年1月21～22日の「陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2017」(於コミュニティホール)は、開

設目的であった陸前高田で活動する学生の交流を実現するイベントとなった。東北地区はもちろん、九州、関西、関東各地の大学に加え、ハーバード大学ライシャワー研究所のスタッフも取組発表に花を添えた。またこれに先立つ6月6日(2016年)には、岩手大学の復興活動に対して1千万円を寄せたミュージックグループのスターダストレビューが陸前高田コミュニティホールでコンサートを実施、学長が感謝状を手渡した。11月5日には東中学校近くの「朝日のあたる家」において、キャンパス開設にあたっての地元説明会を実施している。また立教大学も池上彰氏の講演会を開催(2017年2月25日、コミュニティホール)するなど、陸前高田グローバルキャンパスはオープニングに向けていよいよ盛り上がっていった。

雪が消えた2017年4月25日、ついに陸前高田グローバルキャンパスはオープニングセレモニーの日を迎えた。モンティ・ホールは約150名の人で満員となった。モンゴメリー・ディクソン氏の実姉(シェリー・フレドリックソンさん)がアラスカから駆けつけ、モンティ・ホールのプレート除幕を行ったことは、NHK WORLDで詳しく報道された。地元住民との交流を重視するキャンパスを象徴するように、米崎中仮設合唱隊による歌声が式を締めくくった。

キャンパスオープン後の利用は順調に進み、2017年度の利用者は5千名を超えた。第2回目のシンポジウムである「陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2018」(2018年3月3~4日)は、コミュニティホールからキャンパスに会場を移し、地元高校生も交えて開催された。立教大学は野球教室や「立教たかたコミュニティー大学」をシリーズで開催するなど、住民との交流事業を着々と実施した。これらの活動実績の多くはホームページに公開されており、予定行事も外部からの一般参加・見学等の可否がわかるようにして公開されている。

順調にスタートを切った2年目の5月27日(2018年)、郭洋春立教大学新総長、戸羽市長、岩淵学長がキャンパスに顔を揃えて久しぶりに協議会を開催、将来構想について意見を交わした。ここで今後取り組むべき大きな柱のひとつは、アカデミックな活動に加えて住民との交流拡大であり、もう一つは、防災教育拠点としての機能であることなどが確認された。また2018年度は、役員会中心であった2017年度の運営体制を改め、3者同席による企画運営委員会が事業を積極的に企画していく方針をとることとなった。国立の地方大学である岩手大学と、首都圏の私立大学である立教大学との異色の組み合わせによる共同事業である「陸前高田グローバルキャンパス」は、まだ産声を上げたばかりであるが、今後も国内外から多くの注目を受けながら、陸前高田市の復興とともに歩んでいくことになる。